

## 「帰敬式法座」始まる

### ■開催の願いと経緯

2017年度から、全国で「帰敬式法座」が実施されています。

高山地区では、飛騨御坊真宗教化センターにおいて、教化の三本柱の一つとして「帰敬式推進」を掲げ、連綿と真宗門徒が誕生していくことを願い100年教化と位置づけ、推進を図っていくことが確認されています。その具体的な取り組みとして、2022年度は、従前の高山別院報恩講帰敬式を、慶讃法要特別事業「高山別院報恩講帰敬式法座」として実施しております。

この法座において、帰敬式の意義を受式者各人が受け止め直すとともに、僧侶と門徒が共に「仏弟子」として出会い直し、尊敬しあう「同朋関係」を築いていく出発点となることが願われており、さらに、僧侶の責任として、住職が法名を提示し授与されるという御仏事を担っているという自覚と、その責任を受けとめ直す機縁となることが願われる事業でもあります。受式者のみならず、住職・寺族が課題を担って法座が開催されることを、大切にしていきたいと思います。

### ■帰敬式の意義と法座のねらい

帰敬式の受式は、自身の人生のよりどころを明確にする尊い機会であり、まさに当人にとっての「立教開宗」という意味があります。それは、「たまたま真宗門徒の家に生まれた…」から、自覚をもって立つ名実伴った「真宗門徒」が誕生することです。その具体的な実践項目として、

- ① 僧侶及び受式者は、未受式の方に帰敬式の受式を呼び掛ける。
- ② それを通して、帰敬式は歿後ではなく、存命中の受式が願われるものであることの認識が定着していくことを目指し取り組む。
- ③ 住職は授与した法名の意味を伝え、受式後の聞法課題としていただくことが定着するよう取り組む。
- ④ 帰敬式受式を通して、教区及び組、別院、各所属の寺院の法座への参加を促す流れを作る。  
(特に所属寺院と別院報恩講参詣を帰敬式受式者の一年のけじめとする。 ※センター長加筆)

### ■取り組みの経過

2021年度は準備年度として、基本構想が策定され、3回のスタッフ学習会が行われました。2022年度から実施年度に入り、全3回の本講座は例年と同じ全体での事前研修会を10月20日昼夜2部制で開催しました。その際、本山研修部長から「来春は、親鸞聖人がお生まれになって八百五十年、教えが説かれて一宗一派が開かれて八百年の慶讃法要をお迎えします。帰敬式を受けるとは、南無阿弥陀仏をいただくことです。みなさんが最初にお念仏を聞いた人はどなたでしたか？自分の中に最初は、お念仏はないんですね。帰敬式は皆さんの人生の第一歩になる式です」という挨拶の言葉をいただきました。

### ■帰敬式の執行

11月3日、高山別院報恩講御満座に先駆けて、105名のご門徒が帰敬式を受式されました。剃

刀は、信悟院鍵役、法話は「真宗門徒」の講題で三島多聞輪番がお話しされました。

受式者は、一様に緊張した面持ちながら厳かな雰囲気の中でおかみそりを受け、受式の喜びを感じている様子でした。

### ■各組研修会

また式の前後の日程で、現在各組ごとに研修会が行われています。

高山1組：9月15日  
清見組：10月17日  
吉城組：11月27日  
高山2組：11月29日  
益田組：12月4日 ※開催済組のみ掲載

なお今後、未開催組においても随時研修会が行われていく予定です。



高山2組開催の研修会（別院御坊会館）

また、帰敬式法座受講者を対象に、来春「慶讃法要奉仕団」が実施され、現在参加者募集中です。

期日：4月21日（金）～23日（日）

〔締切：2月末、参加費：3万円〕

皆様と共に本山の親鸞聖人のおひざ元でゆくり参拝いたしたく、お申込みをお待ちしております。

飛騨御坊真宗教化センター

耳なれ雀



## 謹んで 新年のご挨拶を申し上げます

2023年元旦

高山別院照蓮寺・飛騨御坊真宗教化センター

### ★センター・別院からのお知らせ★

※各行事は、コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

#### 企画会議報告 センター第2期(2023年度～)に向けて

12月22日、今年度第1回目の企画会議が開催されました。

現在のセンター委員の任期が、2023年5月末で満了となります。教区改編を機に新たにセンター体制がスタートしましたが、来年の改選に併せて、組織や事業の在り方について第2期に向けての点検作業を行っていくことが話し合われ、今回その作業に着手されました。

#### ◆「第2期センター体制」に向けたセンター組織及び事業の点検見直し

【2022年度センター教化方針及び概要】より】

教区改編による「飛騨御坊真宗教化センター」の設置から2年が経過した。この間、組門徒会研修の在り方の大きな変更や、教化の三本柱が掲げられ、それに伴う業務負担の解消や充実したセンター業務の実施のためにも、センター体制の見直しが必要な状況にある。

今年度は、この2年間のセンター教化を振り返り、第2期に向けて現行組織の問題点を洗い出し、事業の在り方についての点検を行い、組織等の必要な変更措置を検討していく。

なお、その他、9月5日に開催された第15回全飛組門徒会研修会の反省や、帰敬式法座の進捗確認と今後の会議日程、センター組長懇談会の開催についてなど話し合われました。

#### 2022年度 聖教学習会が始まります

第1回：2023年1月30日（月） 講師：マイケル コンウェイ師  
テーマ：『安楽集』に学ぶ—時機の自覚— ※同封のチラシをご参照ください。

#### 慶讃法要参拝奉仕団募集 帰敬式法座参加者対象

帰敬式法座の第4回研修として「慶讃法要参拝奉仕団」の募集（任意参加）が始まっています。お寺からもそれぞれ参加の呼びかけをいただきますようお願いいたします。

2023年4月21日（金）～23日（日） 定員：先着30名

対象：帰敬式法座受講者 参加費：30,000円

#### 組門徒会研修講師自主学習会開催 第5回研修会に向けて

12月15日午後7時から、組門徒会研修第5回の講義内容について、各組講師による自主学習会が開催されました。参加者は2人。

第5回の講義内容は「真宗の教え—正信偈に学ぶ」で、事務局から『同朋唱和勤行集—現代語訳付』をテキストとして使用することを紹介し、参加者それぞれの講義についてのイメージの情報交換が行われました。

■出家仏教と在家仏教

このことにつきましては、親鸞聖人も書いておられます、

「普勸道俗 念弥陀仏」というのは、普勸はあまねくすすむとなり。道俗は道にふたりあり。俗にふたりあり。道のふたりは、一には僧、二には比丘尼なり。俗にふたり、一には仏法を信じ行ずる男なり、二には仏法を信じ行ずる女なり。 『尊号真像銘文』末 聖典525頁

道を二つに分け、一つには男性の出家者は僧(比丘)、二つには女性の出家者を比丘尼と言います。次に俗を、仏法を信じ生きようとする男と、仏法を信じ生きようとする女とに分けます。これは在家の仏教者です。インドの言葉の習いで、在家の仏教者を優婆塞と優婆夷と言ひ、男性と女性の言葉の違いを語尾の違いであらわします。親鸞聖人はそのことをちゃんと意識して、仏教を信じ行ずる男と仏教を信じ行ずる女と、男女それぞれで在家の仏教者ということを確認しておられます。

「出家」というのは家を棄てて出ます。家というのは、愛情というものによってまとまっています。と同時に、人間が居る場ですから、裏切られることもあります。あるいは愛するあまりに、その愛する人を自分の愛で縛ってしまうということも起こります。その時、怒りや怨みが発生します。また同時に、家というのは比べ合う場所でもあります。ですから、家というのは煩惱が起こる場所です。出家というのは、その煩惱を離れることを目的とします。

それに対して、我々大谷派は在家仏教ですから、家にそのまま居るわけです。蓮如上人の『御文』に

は「在家止住」という言葉がよく出て来ます。止住というのは、家にとどまり家を住処とすることです。それは、まさに煩惱が起こってくる場所にとどまり、そこを住処にする者だということです。そこにおいて仏教者であるということが大乘仏教ですね。在家の仏教者に煩惱を断ずることが期待されているわけではありません。

一方、そこを離れてあらゆる関係を断って、煩惱を断じていくという形で歩むのが出家仏教です。ですから、これは基本的に担う課題が違うわけです。

これは、全く方向が違う仏教が許されたということです。家にいながら、煩惱の中にどっぷりつかっている者が、どう教えを確かめるのかといたら、「仏と法と僧ということに立ちなさい」というのが、お釈迦様が開かれた内容だということです。

■南無阿弥陀仏と確かめ合える場が僧伽

それで、仏と法と僧ということですが、一つ一つ確かめてまいりますと、

【仏】 目覚めた人。私たちの姿とその問題。そしてそれを教え照らしだすはたらきに目覚めた人。釈迦如来。さらに、私たちに先立って、教えに目覚め、教えを勧めてくれる諸仏。

【法】 ダルマ。仏陀が目覚めた内容。私たちの姿とその問題を教え照らすはたらきが、南無阿弥陀仏ということばによって示された。

【僧】 僧伽(サンガ)。仏の教えを通し、法のはたらきを共に確かめていく仲間。法によって見出される共同体。共に法が確かめられていく場所。

仏は仏陀ですから、目覚めた人です。私達の姿とその問題を、教えに照らし出すはたらきに目覚めた

人です。ですから、私達にとって直接にはお釈迦様が仏陀です。そして、我々に先立ってお釈迦様の教えを聞いて、我々に念仏の教えを勧めてくれる方が諸仏です。

法(ダルマ)とは、仏陀が目覚めた内容です。私たちの姿を教え照らす用きが、南無阿弥陀仏という言葉によって示されました。「如来所以興出世 唯説弥陀本願海」とありますように、如来(お釈迦様)が世に出られた理由、目的は、阿弥陀仏の本願海を説くためです。お釈迦様が目覚めそれが説かれた内容は阿弥陀仏ですから、法は、阿弥陀仏の本願だということになります。

そして、僧、これは僧伽(サンガ)です。仏の教えを通して法のはたらきをお互いに確かめていく仲間ということで、法に依って見出される共同体と言っているのではないかと思います。ですから、僧伽というのは、目覚めた人であるお釈迦様が、目覚めた内容である法を説かれる場所です。そして、説かれた法を僧伽に集まった人々は、聞法という形で聞くということです。

ですから、具体的には僧伽というのは、法が説かれ共学される場所です。お釈迦様が目覚めた南無阿弥陀仏という本願が説かれ、そのことを聞いて、「ああ、確かに我々は南無阿弥陀仏ということによって、支えられ生きているんだ」と。そのことを一緒に確かめ合っていく場所が僧伽です。法が説かれ、法が聞かれ、共に法を確かめていく場所が僧伽です。

高山1組 不遠寺住職  
企画会議副座長 四衢 亮



『高山市民時報』ミニ法話『響』1月

- 細川 隆一氏 (吉城組浄慶寺副住職)
- 井野 了慧氏 (高山教務支所書記)
- 白尾 公信氏 (高山2組了心寺住職)
- 小原 宗成氏 (高山1組圓龍寺住職)

web ひだご坊でも「一口法話」配信中!  
※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

第41回 真宗公開講座 共通テーマ:「立教開宗」とは

- 1月17日(火)午後2時 《500円》 主催:真宗同朋会  
講師:藤井慈等師(三重教区慶法寺) 講題:「首の飛ぶような念仏」
- 2月1日(水)午後2時 《500円》 主催:大谷専修学院 青草びとの会  
講師:狐野秀存師(大谷専修学院院長) 講題:真宗の生活—安心と法義
- 3月6日(月)午後2時 《500円》 主催:同朋大学卒業生有志  
講師:安藤 弥師(同朋大学教授) 講題:親鸞聖人の「同朋」—「立教開宗」を考える—



飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2023年1月行事予定 ※コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区	会場	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区	会場			
1	日	0:00	別 修正会 法話:三島多聞氏(別院輪番)	本堂	18	水						
2	月	13:00	別 修正会 法話:小原正憲氏(専念寺住職)	本堂	19	木						
3	火	13:00	別 修正会 法話:澤邊恵亮氏(誓願寺住職)	本堂	20	金						
4	水				21	土						
5	木				22	日	19:00	教 清見組親鸞教室補講				
6	金		別 鏡開き		23	月	19:00	教 高山2組親鸞教室④	御坊会館			
7	土				24	火						
8	日				25	水						
9	月		教務所冬期休暇~9日まで		26	木	19:00	教 教化研究所	研修室			
10	火	14:00	伝道部会	研修室	27	金	13:00	別 親鸞聖人お逮夜	本堂			
11	水	13:00	別 大谷婦人会新年互例会 法話:三島多聞氏(輪番)	本堂	28	土	13:00	別 親鸞聖人御命日 法話:細川宗徳氏(蓮乗寺住職)	本堂			
12	木	19:00	教 高山2組親鸞教室③	御坊会館	29	日						
13	金	7:00 13:30	別 前住上人ご命日 組 高山2組組会	本堂 研修室	30	月	13:30	教 聖教学習会①(講師:マイケルコンウェイ氏)	研修室			
14	土				31	火	15:30 19:00	組 高山1組組会 教 高山2組親鸞教室⑤	研修室 御坊会館			
15	日	7:00	別 半日華		2023年2月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。							
16	月				日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
17	火	14:00 18:00	別 真宗公開講座(講師:藤井慈等氏) 個 部落差別問題学習会(講師:藤井慈等氏)	御坊会館 研修室	1	水	14:00	別 真宗公開講座	14	火	13:30	教 聖教学習会②
					11	土		組 高山2組後期教習~13日				